

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第81号

発行日：令和元年 5月 1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市教育委員会事務局内

平成31年度総会開催

4月11日（火）スワンホールにおいて、平成31年度総会が開催されました。

最初に、今年度からの市役所の人事・機構改革について中畔博物館館長より説明があり、当会の所属が教育委員会の生涯学習部博物館に変更となることが発表されました。

続いて、内田会長の挨拶の後、松田副会長の30年度活動報告、半澤会計の30年度会計報告が行われました。その後、酒井副会長より新年度会員52名の内、当日の出席者47名で総会成立するとの報告がありました。次いで、31年度活動計画案、予算案が提案され、討議の結果、原案どおり承認されました。

続いて新入会員5名の紹介があり、31年度は会員数52名でスタートすることになりました。



いひとときを過ごしました。

総会后懇親会が催され、お弁当や伊丹のお酒を味わいながら、仲間との歓談やカラオケで楽し

（金川 記）

第24回 文化財ボランティア養成講座 史跡めぐり 猪名野探訪

平成最後となる平成30年度の文化財ボランティア養成講座（全8回）が、平成31年1月22日（火）に始まり、3月16日（土）には締めくくりとなる史跡めぐりガイドが行われました。参加者は受講生6名と一般参加者7名、そして会員・関係者11名の総勢24名です。今年は『猪名野探訪～なぜそこに文化財があるのか～』と題して、伊丹市と尼崎市にまたがる猪名野古墳群や神社などをめぐって、身近なところにある文化財を見て知るコースです。

当日の天気は朝方に激しい雷雨があり開催が心配されましたが、開始時間近くになると、薄日が差すぐらいにまで回復しました。しかし雨の後の花粉をまき散らす強い風に加え真冬のような寒さ、そして足元の悪いなかのスタートとなりました。

今回は、園田大塚山古墳（跡）・中ノ田遺跡→御願塚古墳周辺墳（温塚跡・掛塚跡）→御願塚古墳・行基菩薩像→旧御願塚村・伊丹市都市景観形成建物→須佐男神社・歌碑（能阿法師）のコースです。

JR猪名寺駅東側に集合し、最初に社会教育課から猪名野についての説明がありました。

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。市内の史跡・文化財のガイドのお問い合わせは、伊丹市教育委員会事務局内博物館（文化財担当）までお願いします。（☎：072-784-8090）

駅から東に向かい、尼崎市南清水にある大塚山公園が、受講生の最初のガイド地点です。天狗塚古墳ともよばれる園田大塚山古墳は 6 世紀前半の前方後円墳で、公園内に 1/2 の縮尺で復元されています。

次のガイド地点の温塚跡までは、このコースの一番長い距離で約 20 分歩きます。掛塚跡・満塚跡な

どを見学し、阪急伊丹線を越え御願塚古墳に到着です。御願塚古墳は 5 世紀後半の



帆立貝式前方後円墳で県指定文化財です。この古墳はいつ来ても綺麗に清掃されていて、清々しい気持ちになります。地域の方々に愛され大事にされているのが良くわかります。行基像は御願塚古墳の北側に道路を挟んであります。御願塚古墳と同地点で行基さんの功績などをガイドされました。行基像を見学し、御願塚村の中を北へ向かい、新幹線高架下で旧御願塚村と伊丹市都市景観形成建物のガイ

ドです。

最後のガイド地点になる須佐男神社への道は、伝統的農家の屋敷と道路の間



を流れる水路が景観を引き立てています。須佐男神社の本殿は 17 紀中頃の建立と推定されていて、市の有形文化財に指定されています。境内には猪名野を歌った歌碑があり、歌の作者は能阿法師で、室町時代の荒涼とした猪名野を寂しく旅する実感と、しみじみとした情緒を歌った歌です。

これにて今回の史跡めぐり『猪名野探訪』は終了です。

受講生の皆さんは初めての緊張もあつたでしょうが、それぞれ自分なりの工夫や入念な下準備をされており、堂々としたガイドでした。入会していただければ、すぐにでも即戦力として活躍していただけると感じました。寒い中、受講生の皆さんお疲れ様でした。

(古結 (秀) 記)

第24期

新人紹介

新しく会員となられた 5 名の方々の自己紹介です。みなさん、よろしくお願ひします。

新井 若菜 (あらい わかな)

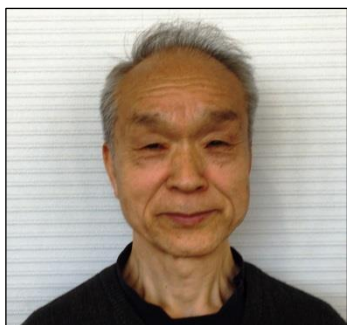


この度、木曜班に参加させて頂く事になりました新井若菜と申します。昨年、桜の時期に伊丹へ越してきてから早一年が経ちました。年末の帰省時、飛行機の中から北摂の古墳が見え(お

そらく太田茶臼山古墳)、「古代の遺跡がこんな間近に見られるなんて！」と感動し、古代史に興味を持ちました。その後タイミング良く広報で、「古墳の形が意味するもの」「猪名野の歴史」という内容の文化財ボランティア養成講座を見つけ、受講に至りました。「キナイって何だろう？どんな漢字？」…こんな次元から始まりましたが、皆様方のご指導を頂き少しずつ伊丹の文化財を学び、伝えていけたらと思っています。

どうぞ宜しくお願ひ致します。

佐々木 道治 (ささき みちはる)



伊丹市に住んですでに 21 年になりますが、まだまだ伊丹について知らないことが多いです。職場は尼崎市内だったので退勤して阪急伊丹の駅から西北西に向かって我が家への帰途の途中、夕陽がとてもきれいで、なおかつ空が広く見えるのに感動した覚えがあります。また、JR伊丹駅から産業道路へ出るまでの通り、長寿蔵の酒蔵、三軒寺付近の広場、岡田家の旧家、白壁と瓦屋根が印象的な伊丹小学校の佇まいなど、伊丹市が歴史や文化を大事にしているのがよく伝わってきました。

昨年 3 月退職して自由な時間が増えてきましたので、さらに伊丹市の文化や歴史について深く学習したいという思いがあったことと、何か人様に役立つことができたらと思って文化財ボランティアの会に入会しました。楽しく活動したいと思いますのでよろしくお願ひします。

玉浦 正 (たまうら ただし)



生まれも育ちも横浜です。小高い丘の上で産声を上げ、海苔しびの立つ浜辺で釣りなどをして育ちました。木苺があった丘もメダカがいた小川も、今では高層住宅が建ち、子供時代の風景は無くなりました。

昭和 44 年に東京で入社試験を受けたものの辞令は大阪勤務で、自らの生涯を伊丹生まれの女性と共に過ごすようになるとは、当時全く知る由もありませんでした。縁とは不思議なものです。転勤 6 回、転宅 8 回の末に 66 歳半ばまで働き、平成 25 年 6 月に伊丹に根を下ろしました。

新元号令和が発表された直後の総会に出席された先輩の方々は皆若々しく、「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を云う」という詩を思い出しました。

お仲間に加えて頂き感謝致します。

古川 昭一 (ふるかわ しょういち)



私が歴史というものに初めて係わったのは 43 歳の時です。新聞の片隅に掲載されていた「柳の御所（奥州藤原氏の平泉館跡）発掘への参加」の記事でした。往復夜行バスに揺られての参加。毛越寺の宿坊に泊まり込み、洗たくをしながら一週間、地元の人たちに混じって発掘の手伝いをしました。毎日が楽しくて、あっという間の一週間でした。

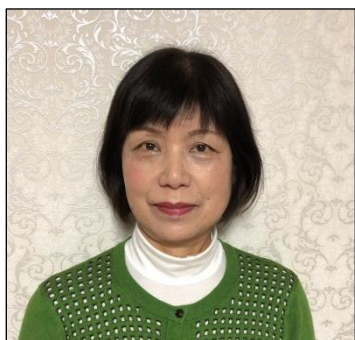
あれから四半世紀、半年前に引越して来た伊丹で、この街の歴史に係わろうとしています。しかしかつて大阪～仙台間を夜行バスで往復した体力は、もうありません。

高血圧と頻尿に悩む今では、自分の体力と相談しながらボチボチとやっていく程度だと思っています。

でも好きな歴史に係わり、未来を夢見る子供たちの瞳に出会えることで、気力と若干の体力が戻ってくるのではと期待しています。

(新人紹介 次ページに続く →)

榎 良子 (まき よしこ)



文化財市民ガイド 歴史ウォーキング
早春の伊丹緑道から多田街道、
そして伊丹廃寺跡を巡る

平成最後の市民ガイドが3月21日(木・祝)催されました。春に3日の晴無しと言われるように周期的に雨が降り、予報通り朝から雨。しかしながら、出発時間の頃には雨も上がり出発。

本日の予定コースはJR伊丹駅～稲野神社～伊丹緑道～発音寺～白洲屋敷跡～多田街道～辻の碑～臂岡天満宮～緑ヶ丘公園～伊丹廃寺跡を一般参加者7名、会員15名の22名で歩きました。

最初の猪名野神社ではムクロジの木の説明を受け、実を探すが残念ながら発見できませんでした。猪名野神社には鬼貫の「鳥は未だ

口もほどけず 初桜」という句碑がありました。詠まれたのは丁度早春の今頃の時期では



なかったのではないのでしょうか。

発音寺では三面大黒天立像が拝観できるのかと密かに期待していましたが、門前での説明だけで拝観するは出来ませんでした。

伊丹緑道沿いの満開の寒桜を眺めながら多田街道に入ると、途中で市内では珍しい水

この度、文化財ボランティア木曜班に加入させていただきました榎良子です。宝塚市にすんでいます。我が家のすぐそばの長尾山ぼんらい山古墳の発掘調査がはじまり、このあたりを古代人が歩いていたなんて、ロマンを感じます。そして、長尾山から伊丹台地が猪名川と武庫川に挟まれ、行基さんが・・・伊丹の歴史にも興味をもちました。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

車があります。残念ながら水車は回っていませんでしたが、大正時代まで現存していたものを、地元の「北村の景観を創る会」の方々が復元し、回しているそうです。

多田街道と西国街道との交差するところに辻の碑があります。この碑には表面に銘文があつて、

昔は多くの文字が刻まれていましたが、今は「従東寺十里」しか読み取れません。碑には各方面への距離が表示されていたようで、辻村が摂津の国の中央(中心・へそ)であったことを標示するために建てられたものです。

駄六川沿いから臂岡天満宮へ。社殿の白梅は散り始めていましたが、満開の紅梅の前で臂岡天満宮の名前の由来の説明を受けました。

緑ヶ丘公園の池の周りを巡り最終目的地の伊丹廃寺へ。伊丹廃寺の説明を受けていると少し雲行きが怪しくなってきましたが、傘をさすほどでもなく終了し解散しました。

当日は今年の養成講座終了後入会された新人が2名参加されており、熱心に説明を聞いておられました。

(内橋 記)

※今後の市民ガイドは5月18日(土)、9月28日(土)に予定されています。



阪急・阪神沿線観光歩き②

伊丹郷町と

伊丹老松酒造をたずねる

3月23日(土)、寒の戻りで冷たい風が吹く薄曇りの天候でした。まち歩きの参加者は



46名、スタッフを加えると50名を超えるので、参加者を二班に分けて阪急伊丹駅を出発しました。猪名野神社・有岡城跡・荒村寺・本泉寺・墨染寺を巡った後、みやのまえ文化の郷で合流し、旧岡田家住宅の酒蔵にて伊丹老松酒造の高橋氏より「日本酒入門講座」を聞きました。

高橋氏は「本日は吟醸酒・純米酒・本醸造酒の三種類を準備しています。実際に飲んで、

自分の好みの味を見つけていただき、お酒を買い求めるときや、旅先で酒蔵を訪ねられたときなどの参考にして下さい」と話されました。毎年お酒の試飲ができるこのコースは人気があります。ヒヤッとした酒蔵内の空気が浮き立ち、参加者の期待度の高さがうかがわれました。

高橋氏は冒頭で「伊丹が清酒発祥の地ということをご存知の方はどれぐらいいらっしゃいますか?」と問いかけられました。今回初めて伊丹に来たという参加者が多く、手を挙げた方が思いのほか少なく残念に感じました。しかし、参加者の皆さんが、まち歩きでお酒を楽しんだ話とともに、伊丹が清酒発祥の地だと話して下さることでしょう。



(藤原 記)

コラム

伊丹酒の伝統をつなぐ能登の酒蔵

末次 弘幸

金沢旅行の際に、奥深いうまさを感じる酒に偶然出会った。その酒の名は「宗玄しぼりたて生原酒」。醸造元は石川県珠洲市の「宗玄酒造株式会社」である。

どんな酒蔵なのか知りたくなり、ホームページにアクセスした。伊丹と深い縁のある酒蔵であることが分かり、宗玄酒造に親近感を覚えると同時に、その酒を飲み潰れるまで飲んで、応援したくなった。

「宗玄酒造は1768年、七尾城主・畠山義春をルーツとする初代・宗玄忠五郎が創業した、250年の歴史を持つ奥能登最古の酒蔵である。創業者の子孫(4代目・宗玄忠五郎)が清酒発祥の地・伊丹の酒蔵で修行し、秘伝を習得したと伝えられている」

伊丹の酒蔵とはどこか。

「伊丹の酒造家(松緑)・松屋与兵衛の蔵」とある。現在の「旧岡田家」である。

伊丹は江戸時代から「清酒発祥の地」として、遠い奥能登にまでも知られていたと思うと、誇らしく思える。

旧岡田家での来館者への説明に、「奥能登にも伊丹酒の伝統を受け継ぐ蔵があるのですよ」と紹介すれば、奥深い味わいのあるガイドになるのではないだろうか。



皇位継承に関する雑学

酒井 かづえ

2019年4月1日に新しい元号が発表され、5月1日に新しい時代<令和元年>がスタートしました。

平成28年(2016)8月8日 陛下が生前譲位の意向を示されました。生前譲位の最初は35代皇極(こうぎょく)天皇で、その後118代後桃園天皇までなくて、江戸後期の119代光格(こうかく)天皇以来、約200年ぶりであって少々興味があり、調べてみようと思いつきました。

政府は平成30年(2018)3月31日有識者会議の議論をふまえ、「皇室会議」で天皇の退位と皇太子の即位の日程と、「一代限り」特例法で儀式のあり方を決定いたしました。

※昭和天皇の時を参考にしています。

今回の定例会発表は、「①皇位継承」、「②儀式」、「③三種の神器」の内容で行いました。

①皇位継承について

天皇の家系は1000年以上続いてきた国家を存続させ国民を統合してゆく上で天皇の存在は不可欠で、多くの日本人にとって天皇や皇族はいろいろな意味で関心の対象になっています。

「日本国憲法」には先頭に置かれた条文で天皇を規程しています。

第1条 天皇は、日本国の象徴であり、この地位は主権の存する日本国民の総意に基づく。

第2条 皇位は、世襲のものであって、国会の議決した皇室典範の定めるところによりこれを継承する。

皇位継承については「皇室典範」で定めるとしています。皇室典範は戦前と戦後で明確に異なっています。

明治22年(1889)に定められた旧皇室典範

では、帝国議会は皇室に関する事項については全く関与できなかった。しかし、第二次世界大戦後(昭和22年)に定められた皇室典範は普通の法律と同じになり、国家の統制が及ぶことになりました。

現在の皇室典範で「皇位継承」について、下記のとおり定められています。

第1条 皇位は、皇統に属する男系の男子が、これを継承する。

第2条 皇位は、下の順序により、皇族にこれを伝える。

1. 皇長子（天皇の長男＝皇太子殿下）
2. 皇長孫（天皇の長男の長男）
3. その他の皇長子の子孫
4. 皇次子及びその子孫
5. その他の皇次孫
6. 皇兄弟及びその子孫
7. 皇伯叔父およびその子孫

②皇位継承の儀式について

1. 剣璽(けんじ)等承継の儀

御所の天皇の寝室の隣に土壁に囲まれた「剣璽の間」があり、そこに神剣と神璽(勾玉)が安置されています。剣璽渡御の儀は、天皇が譲位・崩御の後、皇位継承者が皇位継承の証として神剣と神璽を受けつぎ新天皇となる儀式です。昭和天皇崩御直後1989年(昭和64年)1月7日午前10時より皇居正殿松の間で執り行われました。

2. 賢所(かしこどころ)の儀

宮中三殿(賢所・皇霊殿・神殿)のうち、皇祖天照大神の御霊代である神鏡を祀る賢所において八咫(やた)の鏡を承継する儀式です。この儀式によって、皇位の証である三種の神器を継承し天皇は正統な皇位継承者となります。

3. 即位後朝見の儀

新天皇が初めて首相らに言葉を述べる国事行為たる儀式です。

4. 大嘗宮(だいしょうきゅう)の儀

新天皇が一世一代に行う五穀豊穰と国家国民の安寧を祈る儀式で喪が明けて最初の新嘗祭(にいなめさい)たる大嘗祭が、即位の翌年1990年(平成2年)11月23日に大嘗宮の儀が執り行われ、皇位継承に伴う儀式はこれをもって最後となります。

※その他の儀式について

◎天皇陛下ご在位30年記念式典

2019年2月24日内閣の行事として国立劇場において行われました。

◎ご退位に伴う式典

国民の代表に会われる儀式として、退位礼正殿の儀は2019年4月30日に行われました。

◎皇太子殿下のご即位に伴う式典

- ・剣璽等承継の儀 2019年5月1日
- ・即位後朝見の儀 2019年5月1日
- ・即位礼正殿の儀 2019年10月22日
- ・祝賀行列の儀
- ・饗宴の儀
- ・内閣総理大臣夫妻主催晩餐会
- ・立皇嗣の礼
- ・大嘗祭の儀

2019年11月14日～11月15日

③三種の神器とは

天孫降臨の時に、天照大神から授けられたとする鏡・剣・玉を指し、歴代天皇が継承してきた三種の宝物です。

◎八咫(やた)の鏡

伊勢神宮のご神体として祀られています。

◎やさかにの勾玉

一説に八尺の緒につないだ勾玉で、古代のものが今も皇居に現存しています。

◎天叢雲剣(あまのむらくものつるぎ)

草薙の剣とも称され、スサノオノミコトが出雲で倒したヤマタノオロチの尾から出てきた剣とされています。熱田神宮のご神体樟(くす)のくりぬき箱の中にある黄金の延べ板の上に草薙の剣がおいてあり、その樟箱を木箱に入れて周囲を赤土で埋めて密封してあるそうです。

【参考】女性天皇(女帝)について

過去10代に8人の女性が天皇として即位し、2人が重祚(ちょうそ 同じ人が2度即位)しています。

- ・33代 推古天皇
- ・35代 皇極天皇(37代 斉明天皇)
- ・41代 持統天皇
- ・43代 元明天皇
- ・44代 元正天皇
- ・46代 孝謙天皇(48代 称徳天皇)
- ・109代 明正天皇
- ・117代 後桜町天皇

Quiz 歴史ものしりクイズ

①～⑩の事件や出来事に関係した歴代天皇を、(ア)～(コ)から選んでください。

- ①承久の乱 ②建武の新政 ③長岡京へ遷都 ④東大寺建立 ⑤蛤御門の変 ⑥白村江の戦い
⑦幸徳事件(大逆事件) ⑧保元・平治の乱 ⑨藤原京に遷都 ⑩古今和歌集

- (ア)孝明天皇(イ)後白河天皇(ウ)後醍醐天皇(エ)聖武天皇(オ)醍醐天皇
(カ)明治天皇(キ)持統天皇(ク)天智天皇(ケ)後鳥羽天皇(コ)上皇
(コ)桓武天皇

※答えは12ページ



東京へ行くと必ず立ち寄ることになっているのが、東京国立博物館。伊丹からはJR在来線と新幹線を乗り継いでJR上野駅まで約3時間30分、さらに駅から徒歩約10分の距離で、美術館、博物館、コンサートホールなどの文化施設が建ち並ぶ上野公園の一角にある。



日本で最初の博物館で、日本を中心とした東洋諸地域の美術作品と考古遺物約117,000件以上を収集保管、展示公開、調査研究することを目的としている。本館はじめ6つある展示館のなかでも、平成館に入る機会が圧倒的に多い。

平成館1階の考古展示室には、縄文時代の土偶、弥生時代の銅鐸、古墳時代の埴輪など、教科書で見たことがある遺物が目白押しで、縄文時代から近代までの歴史学習に格好の場所である。考古展示を一巡りした後、時間があればもう一度入室して、縄文時代から復習することもある。何回見ても飽きることはない。



2018年8月に平成館を訪れた際は、特別展「縄文-1万年の美の鼓動」が開催中で、火

焰土器や土偶の美を心ゆくまで堪能した。国宝の火焰型土器・土偶「縄文のビーナス」などは、赤絨毯を敷いた特別室のガラスケースに展示され、文字通りVIP待遇だった。

今は年間200万人近い入館者があるという東京国立博物館だが、その創設までの道のりは決して平坦ではなかった。この博物館創設と文化財の保護に生涯を捧げ、「ミスター博物館」「ミスター文化財保護」と呼ぶべき人がある。その人の名は町田久成(1838-1897)。

久成は1838年(天保9)年1月2日、薩摩島津家一門の名家に生まれた。1865(慶応元)年に薩摩藩が派遣した18名の留学生の引率者として渡英。その時、大英博物館に強い感銘を受ける。大英帝国は美術品、文化財、標本、資料などを世界中から集め(収奪とも言う)ていたが、久成はその実物に触れ、書物からだけではなく実物から学ぶことの重要性を知り、日本にも近代博物館が必要であることを痛感したのである。

帰国後は明治新政府で働くのだが、時折しも、廃仏毀釈運動が盛んで、文化財が廃棄されたり、海外へ流出したりするのを目の当たりにする。

1871年(明治4)4月、政府に対して文化財調査や保護、収集、さらには収集した文化財を展示する博物館の創設を提言した。社寺の文化財調査を行うに際しては、私財を投じて、古書・古美術品を買い求め、少しでも文化財の散逸を防止しようとした。

当初は博物館という施設が理解されず、また富国強兵・殖産興業が最優先の状況の中では、不要不急とされた。だが久成は熱心に文化財の収集を行い、予算の壁や政府内部の権力抗争などの障壁を超えて、1882(明治15)年3月20日、上野の「博物館」(のちの東京帝室博物館、東京国立博物館)を設立し、初

代館長に就任した。

博物館建言から 10 年以上かけての博物館誕生だった。だが、久成は館長就任 7 か月で長州出身の上司によって解任されてしまう。

現在博物館本館北側の庭園には、初代館長・町田久成を顕彰する石碑が建っているが、入館者の目にふれることは滅多にない。

寄稿

聖徳太子の日・・・荒牧・安倉の石合戦

かつて、長尾小学校では 3 月 22 日を聖徳太子の命日だといって、小学校は昼から休みになり、容住寺の境内には店も出て多くの人で賑わった。

この日は隣村の安倉と天王寺川を挟んで石合戦をするのが恒例であった。まず畑を隔て、お互いに相手を罵り合った。“ケンカしょうか ようせんか、勝っても負けても荒牧じゃ”ポケットに河原の石を詰めて、麦の芽が出始めたばかりの麦畑を駆けていく。ポケットから石を出して安倉村の方へ投げる。届くはずもないが、石ころは畑の中に転がって、今度はお百姓さんが大声をあげて追ってきた。行ったり来たりを日長やって、一人帰り二人帰りして何時とはなしに石合戦が終わった。

この石合戦は聖徳太子が見ておられて、数は少ないが、良く纏まっている荒牧が勝つと言われたとの伝えもある。又、安倉村の殿様(一橋)が荒牧村の殿様(桜井)より格が上だと言って洪水の時に荒牧側の堤防を切ったので、その見張りをしていたのが始まりとも言われている。天王寺川は今も昔も変わらず天井川で、現在より川幅も狭く 2~3 年に一度は決壊していた。西の堤が切れれば安倉村が水に漬かるし、東に切れれば鴻池も水漬かりになる。昭和 20 年以降、私の記憶では安倉側へ 1 回、荒牧側へ 2 回の決壊があった。現在は川幅も広くなり、更には昔麦畑であった畑も住宅が立ち並び昔の面影を求めることが出来ない。今は 3 月 22 日に容住寺で聖徳会が開かれるのと、天王寺川の土手に“聖徳太子講”の旗が数本風になびくだけである。(林 記)

※参考文献 荒牧郷土史



京・アラカト ⑪ 一条の戻橋

池田利男

死んだ人が生き戻った橋なので、「戻橋」と云われる。

- ◆ 浄蔵と言う僧が、父の三善清行の葬列に出会った時、父の遺体に加持を行ったところ、父が蘇ったので、「戻橋」と名付けられた。
- ◆ 蘆屋道満は安倍清明の父親、安倍保名を一条戻橋にて殺害したが、清明は祈祷で蘇がえらせた。清明は式神をこの橋の下に、置いていた。
- ◆ 渡辺綱が、この橋の上で、鬼女の腕を切り落とした場所として有名。
- ◆ 近くに安倍清明神社と千利休の聚楽屋敷があった。
- ◆ 千利休のさらし首。秀吉は大徳寺の山門・金毛閣に置かれていた利休の像を引きずり降ろし、この橋にさらし、利休の首を像の下に置き、自身の像を踏ませる形でさらした。
- ◆ 「戻る」を嫌って、嫁入りや、葬式の列はこの橋を、渡らなかった。



寄稿

遍路について

中山千恵子

10年程前に、行ってみたいと思っていた遍路を始めました。



当初2、3年で終了する予定でしたが、私の体調不良などが多かったことや、私にとっての遍路道を歩ける良い季節が年に四か月ほどしかなかったこともあって、10年余り費やして、今年やっと八十八寺を打ち終えました。

遍路道とは巡礼道の事ですが、なぜ四国だけが遍路と呼ばれるかは、四国の場合はほとんどが海岸の辺地か山辺の道に偏るため、辺地道が遍路道となったそうです。狭義では歩き道を指します。



遍路開創 1200年

遍路は平安末期に書かれた今昔物語や、梁塵秘抄の今様にも歌われています。東大寺の復興を果たした重源が修行し、西行が崇徳上皇の白峯御陵を参拝した記録が残っています。

戦国時代長宗我部元親が四国平定のため、後に秀吉の四国攻めで1585年札所は壊滅的な被害を蒙りました。

遍路は江戸時代に盛んになりました。当時は物見遊山に他国に行くのは容易ではありませんでしたが、寺社詣では割合緩やかで自由な旅行が出来た為です。

■ 遍路の目的

大師を慕うとか、信仰が主な目的ですが、遍路道を宿とした人、乞食遍路、飢饉遍路といった職業遍路や病気の快復を願い歩く病気遍路もあります。特にハンセン病の人が多かったようです。これは四国にお接待と云う人々の情に縋って生きるすべがあったお陰です。中には土佐の山内家のように遍路を取り締まった藩もありますが、徳島藩は接待を奨励した藩で、それは今も生きているように感じられます。私の経験では徳島から高知に入ると接待を受ける事が少なかったように思います。珍しい遍路の中には、生涯遍路をするという刑罰を科せられた女性が江戸時代にあったようです。

犯罪者やそれに類した人、飢饉などで故郷を追われた人々、病気の回復を願い、死に装束に身を包み病気や疎外感を抱えて祈り歩き、行き倒れて遍路道に葬られた沢山の人がいました。

しかし、現在では供養や心願成就、または健康、物見遊山的な旅、定年の区切り、漂泊等々…。余暇の充実を楽しむための人が多く歩いています。

私の場合は、一番の理由は漂泊への憧れ、もちろん漂泊する気力も素質も無いので私にとって、遍路は何時でも元の場所に戻れる大義名分のある漂泊だったのです。

■ 遍路の方法

歩き遍路が基本ですが、その他に、車や自転車、中にはリヤカーを引きながらの遍路さんもあります。

順打ち、逆打ち、通し打ち、区切り打ち、一国打ち、巡礼の仕方もそれぞれです。順打ちでは50日位で1日平均1万円ぐらいの費用です。一番費用の掛かるのは区切り打ちです。1区切りは3日間とか1週間とかだと、その往復運賃が余計に掛かります。

私の場合は足の痛みに絶えず悩まされて、歩く距離も伸びず、小まめな区切り打ちになりました。

■ 遍路道全長 1300 km

- ・ 1番長い距離 37番の岩本寺から足摺岬の38番金剛福寺の94 km
- ・ 1番高い山 雲辺寺 911m 遍路転がしと呼ばれる険しい山も 7寺ほど有り、昔は大変な山道でしたでしょう。

■ 開基

- ・ 大師 39 寺
- ・ 行基 29 寺
- ・ 役行者 4 寺
- ・ その他 16 寺

■ 宗派

真言宗 81 寺 7 寺は戦乱等の再建で開基者が代わった為

- 徳島 (発心の阿波) 23 カ寺
- 高知 (修業の土佐) 16 カ寺
- 愛媛 (涅槃の伊予) 26 カ寺
- 香川 (菩提の讃岐) 23 カ寺

■ 遍路宿 民宿、旅館、宿坊、善根宿 (無料で宿泊させる宿)、野宿

■ 荷物 宿を利用して約5kgから7kg 野宿者はそれに野宿アイテム

※困った事といえば、私は扁平足なので、足に沢山出来る水脹れで、常に足の痛みに悩まされました。それと、高所恐怖所で長い橋が苦手、山の中を一人で歩くのも怖いのです。古い遍路宿で泊りは私だけ、家人の気配も無い時もありました。

遍路は何回目と云う人に多々出会います。私ももう一度行きたい思いがあります。でも、何とか打ち終えた今は、沢山の人々のいろいろな親切があったお蔭だと感謝しています。

今回、打ち終えた経験の中から、思いついたことを書き綴りました。

一度、みなさんも遍路を経験されてはいかがでしょうか。



主催：兵庫県阪神北地域ツーリズム振興協議会、大阪府豊能地区広域観光推進協議会
観光ボランティアガイド交流会に参加

地域資源の魅力を伝え、ツーリストに感動や満足を与える活動をしているボランティア団体の交流会が、平成 31 年 3 月 6 日に宝塚で開催されました。

会の始めに、芸術から学術まで領域横断的な表現活動を行っているハナムラチカヒロ氏が「地域の見方を変えるまなざしのデザイン」の演題で講演されました。続いて、豊能町観光ボランティアの会と伊丹市文化財ボランティアの会 (発表: 松田副会長) が日頃の活動を紹介されました。

その後、参加者による交流会が開かれ、当会から参加した会員 6 名は情報交換を行いました。(金川 記)



お薦めの本

「月に捧ぐは清き酒」

小前亮

毛利との戦いで実父の山中鹿之介が討死すると、9歳の幸元は流浪の身となり、大叔父山中信直を頼って鴻池村に身を寄せます。程なく信直が亡くなると、幸元は武士の地位を捨て、商いの道に進み、やがて酒造業を始めます。当時の酒といえば濁り酒でしたが、日本発の透明な清酒を開発し、それが江戸で大ヒットします。物語は幸元の酒造業成功までの半生を、妻はなとの夫婦愛を交えながら描いています。

また、千利休や大久保彦左衛門なども登場し、戦国末期から江戸幕府誕生に至る歴史を織り交ぜながら、楽しく読める小説になっています。



(金川 記)



3月16日 養成講座ガイド



4月23日 有岡城跡清掃

活動記録 (2月～4月)

【定例会】・2/12 (火) ・3/12 (火) ・4/9 (水)

【案内ガイド】・2/8 (金) 岡田家 (京阪ひろ野シルバー会 枚方市) ・2/16 (土) 岡田家・石橋家 (大阪府保健医協会 大阪市) ・2/17 (日) 岡田家・石橋家 (福崎町公民館クラブ 神崎郡) ・3/13 (水) 岡田家・石橋家 (小西酒造 (営業) 東京都) ・3/16 (土) 猪名野探訪 (第24回養成講座) ・3/20 (水) Aコース (ミライトテクノロジーズ 大阪市) ・3/21 (木) 祝市民ガイド ・3/23 (土) 阪急阪神沿線まち歩き ・4/13 (土) Aコース (阪神シニアカレッジ歴史探訪倶楽部 宝塚市) ・4/20 (土) 阪神阪急沿線まち歩き ・4/26 (金) Aコース (自然総研TOYRO 倶楽部 池田市) ・4/27 (土) 岡田家・石橋家 (46会 芦屋市)

【どんぐり座公演】・3/1 稲野小学校

【歴史ロマン体験学習支援】・2/2 (土) マスクを作ろう ・3/2 (土) 平安時代の遊びに挑戦 ・4/20 (土) 勾玉を作ろう

【有岡城跡の清掃】・2/26 (火) ・3/26 (火) ・4/23 (火)

今後の予定 (5月～7月)

【定例会】・5/14 (火) ・6/11 (火) ・7/9 (火)

【案内ガイド】・5/10 (金) 有岡城・郷町館 (緑寿会 枚方市) ・5/22 (水) Aコース (エムエスデー会 大阪市) ・5/26 (日) Aコース (大阪中高年ハイキングクラブ 伊丹市) ・6/6 (木) 有岡城跡 (笹原小学校 伊丹市) ・6/8 (土) Aコース (大阪府立大同窓会 堺市) ・6/27 (木) Aコース (信木会 神戸市)

【歴史ロマン体験学習支援】・5/11 (土) 手ぬぐいを作ろう ・6/8 (土) 鋳造技術を学ぼう

【どんぐり座公演】・6月11日 定例会で公演

【クイズ(7P)の答え】 ①－(ケ) ②－(ウ) ③－(コ) ④－(エ) ⑤－(ア) ⑥－(ク) ⑦－(カ) ⑧－(イ) ⑨－(キ) ⑩－(オ)